杜のみやこ臨床化学研究会の活動報告（第 2 報）

◎小堺 利恵[1)]、播磨 晋太郎[2)]、高橋 瑞恵[1)]、高渕 優太朗[1)]、赤間 愼也[3)]、平泉 敦子[4)]
東北医科薬科大学病院[1)]、独立行政法人 国立病院機構 仙台医療センター[2)]、公益社団法人 宮城県塩釜医師会 臨床検査センター[3)]、東北大学病院[4)]

【はじめに】我々は，臨床化学・免疫化学の基礎知識や技術の習得及び，施設間における横の繋がりを構築することを目的として発足した有志の会『杜のみやこ臨床化学研究会』の活動について第 6 回北日本支部医学検査学会にて報告した．今回は今シーズンの活動内容と以前提起した課題の解決状況について報告する．

【活動内容】研究会は 2 か月に 1 回の頻度で開催する運用は継続しており，年 6 回開催している．講師は主に検査技師が担当し，必ず若手が発表する機会を設け，学会発表等の練習の場としても活用している．今シーズンのテーマとして「臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師」の認定資格取得を掲げており，そのカリキュラムに沿った講義やセッションを中心に開催した．その他に検査結果を多角的に考え，付加価値のある有用性の高い情報を提供する検査技師の育成を目的として，生理検査や病理検査の担当者からの講義を企画した．また今シーズン日臨技生涯教育研修の点数を取得できるように宮城県臨床検査技師会に共催を申請した．さらに，認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師の資格更新対象研修会として開催した．

【課題の解決状況】参加人数が少ない事が課題であったが，宮城県臨床検査技師会と共催することで，ホームページでの周知や会員に対して開催案内を定期発送したことにより，初めて参加する方や県外からの参加者があり，当研究会が広く周知されたと考える．また宮城県の臨床化学における若手育成も課題であったが，当研究会から宮城県臨床検査技師会の生物化学分析部門へ 3 名輩出することが出来た．

【展望】当研究会は宮城県内外で少しずつ周知されてきている．今後は付加価値のある有用性の高い情報を提供する検査技師の育成を継続しつつ，臨床化学・免疫化学に特化した内容を盛り込み，研究会の充実を図る方針である．また，現状の課題として参加者が多くなった一方で，以前と比べ参加者間の横の繋がりを構築するのが難しい環境になっていると感じる．この研究会のポリシーでもある『双方向の関係性』を構築できる内容を企画し，今後もこの研究会を継続したいと考える．

連絡先 022-259-1221（1278）